



平成 24 年 7 月

会 員 各 位

日本ファイナンス学会
会 長 竹原 均

第 20 回大会および会員総会報告

日本ファイナンス学会第 20 回大会は、5 月 26～27 日の両日に一橋大学大学院 ICS（学術総合センター）において開催されました。本多俊毅大会委員長をはじめとするプロコミの皆さま、ならびに主催校の関係者のご尽力により、スムーズな大会運営が実現し、熱心な議論とともに成功裡に幕を閉じることができました。関係各位に心より感謝する次第です。今回は、応募論文 60、報告論文 59 を数え、参加者数も 400 人を超えて盛況でした。とくに基調講演として開催された Dimitri Vayanos ロンドン大学教授による“Capital Market Theory after the Efficient Market Hypothesis”には多くの聴衆を集め注目されるものとなりました。

また、大会開催中の 5 月 26 日午後 5 時より平成 24 年度定例会員総会が開かれ、別添資料の各議案が審議されました。審議結果の概要は以下のとおりとなりました。

(1)平成 23 年度活動報告が資料 1～4 のとおり説明され、原案どおり了承されました。

なかでも I R F 誌に対する日本からの投稿が依然として増えない状況が報告され、NFA 会員からの積極的な投稿が期待されている旨の報告が注目されました。また研究観望会報告のなかで「追加資料」により 8 月 31 日特別講演会が開催され、Milton Harris シカゴ大教授、Artur Raviv ノースウェスタン大教授の講演が好評であったことが報告されました。

(2)平成 23 年度会計報告・監査報告が、提案（資料 5）どおり承認されました。

(3)平成 24 年度予算（資料 6）が提案され、原案どおり承認されました。

(4)第 10 期執行部案（資料 7）が承認されました。本年 2 月の理事選挙の結果をうけて形成された新執行部で、任期は 2 年（2012/5～2014/5）です。

(5)次期平成 25 年度大会は武蔵大学で開催されることが提案され、承認されました。期日など詳細は追って決定されることになりました。

以上が、大会ならびに会員総会の簡単な報告です。学会活動についてご意見ご質問等あれば事務局までお寄せいただければ幸いです。

以 上

日本ファイナンス学会第 20 回大会
会 員 総 会 議 題

日 時：平成 24 年 5 月 26 日（土）午後 17：00

会 場：一橋記念講堂（学術総合センター 2 F）

1. 平成 23 年度活動状況の報告

- ・ 会員状況（資料 1）
- ・ 学会誌の発行状況（資料 2）

現代ファイナンス

International Review of Finance

- ・ 研究観望会報告（資料 3） / 特別講演会報告（追加資料）
- ・ 第 19 回大会報告（資料 4）

4. 平成 23 年度会計報告・監査報告（資料 5）

5. 平成 24 年度予算（資料 6）

6. 新執行部の承認（資料 7）

7. 次期 2013 年第 21 回大会の開催校について

以 上

資料 1

日本ファイナンス学会 会員状況

平成 24 年 5 月 22 日(火)

	2012 年度	2011 年度	2010 年度	2009 年度
正会員	1333 名	1349 名	1363 名	1399 名
特別賛助会員	21 社	21 社	23 社	25 社
純法人会員	33 社	29 社	28 社	29 社
法人会員合計	54 社	50 社	51 社	54 社

※海外会員 23 名

●新規加入 2012 年 5 月 22 日現在 (※各年 1 月以降の加入者数)

	2012 年	2011 年	2010 年	2009 年
法人会員	3 社	3 社	2 社	2 社
個人会員(当年 1 月以降)	44 名	48 名	54 名	39 名
個人会員(前年)	96 名	92 名	73 名	89 名

2011 年、2012 年に入会した法人

- 法人会員
 - (2011) アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー
 - (2011) (株)金融データソリューションズ
 - (2012) 株式会社ソニー・アソシエイツ・ジャパン(株)
 - (2012) 大和証券(株)
 - (2012) 東京海上アセットマネジメント投信(株)
- 特別賛助会員
 - (2011) ビムコジャパンリミテッド

2011 年、2012 年に退会した法人

- 法人会員
 - (2011) 日本生命保険
 - (2012) 東京海上アセットマネジメント投信(株)
 - (2012) 丸 淳子(武蔵大学)

学会誌報告 1

『現代ファイナンス』に関する報告

- 論文投稿状況 (2011年4月～2012年3月) 合計 12本 (前年同期 20本)
(大学関係者 11本 (18本)、実務家 1本 (2本) (所属は執筆時、カッコ内本数は前年同期)

- No.30 (2011年9月号)

審査対象論文数 合計 13本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 3本、掲載不可 2本、継続審査 8本)

No.30 掲載論文

柳瀬典由／後藤晋吾「企業年金財政と株式リターン」

安田行宏／金鉉玉／長谷川信久「ストック・オプション導入の決定要因－日本の新株予約権方式統一後における再検証－」

三宅正敏／井上洋「モーメント法を適用したバリア型アプローチによるデフォルト確率評価法の提案とその実証分析」

- No.31 (2012年3月号)

審査対象論文数 合計 17本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 6本、掲載不可 5本、継続審査 6本)

No.31 掲載論文

竹原均「市場効率性の再検証：株式市場の特性変化と予測可能性」

沖本竜義「国際金融市場の依存関係における非対称性と長期トレンドー時系列モデルアプローチの観望と新潮流ー」

Pleiderer／Marsh／渡辺泰明「金融モデルとクライシスⅡ：アセットアロケーション」

内山朋規／岩澤誠一郎「投資家の「ギャンブル志向」は日本の株価に影響を与えているか：歪度と期待リターン」

宇野淳／柴田舞「取引の高速化と流動性へのインパクト：東証アローヘッドのケース」

小林武「本邦社債スプレッドの期間構造と予測－Nelson-Siegelモデルを用いた実証分析－」

2010年度繰越金			4,482,015
[収入] 2011年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
	日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
預金利息			539
2011年度総収入			4,400,539
[支出] 「現代ファイナンス」制作費	No.29	¥2,559,692	7,262,279
	No.30	¥1,964,535	
	No.31	¥2,738,052	
支払銀行手数料			2,520
2011年度総支出			7,264,799
次年度繰越金			1,617,755

*「現代ファイナンスNo.29」は2011/3発行予定のもの

学会誌報告 2

International Review of Finance に関する報告

2011年度は、予定どおり順調に以下の4号分が発行された。

International Review of Finance Vol. 11, No.2, June 2011

配布年月：2011年7月

部数：1650部

Contents:

SPECIAL ISSUE ON FINANCING AND CAPITAL STRUCTURE: PART II

Issue Editors: Sudipto Dasgupta and Michael Lemmon

Vidhan K. Goyal, Alessandro Nova and Laura Zanetti “*Capital Market Access and Financing of Private Firms*”

Ralf Elsas and David Florysiak “*Heterogeneity in the Speed of Adjustment toward Target Leverage*”

Julio Pindado and Chabela de la Torre “*Capital Structure: New Evidence from the Ownership Structure*”

W. Allard Bruinshoofd and Leo de Haan “*Is the Negative Relation Between Leverage and Historical Market-To-Book Specific to US and Information and Communication Technology Firms?*”

Charles Yuji Horikawa and Shizuka Sekita “*The Degree of Judicial Enforcement and Credit Markets: Evidence from Japanese Household Panel Data*”

International Review of Finance Vol. 11, No. 3, September 2011

配布年月：2011年9月

部数：1650部

Contents:

Sebastian Stange and Christoph Kaserer *"The Impact of Liquidity Risk: A Fresh Look"*

Sanjay Kalra *"Global Volatility and Forex Returns in East Asia"*

Kotaro Miwa and Kazuhiro Ueda *"A Dynamic Volume-Return Relation and Investors' Positive Feedback Trading"*

A.S.M. Sohel Azad, Victor Fang and J. Wickramanayake *"Low-Frequency Volatility of Yen Interest Rate Swap Market in Relation to Macroeconomic Risk"*

Antonio Meles *"Do Private Equity Investors Create Value for Italian Initial Public Offerings?"*

International Review of Finance Vol. 11, No.4, December 2011

配布年月：2011年12月

部数：1650部

Contents:

Weiyu Kuo and Yu-Ching Li *"Trading Mechanism and Market Quality: Call Markets versus Continuous Auction Markets"*

Ryan Garvey and Fei Wu *"What Influences Trader Choice of Electronic versus Intermediated Execution?"*

Jing Yu *"Stock Price Informativeness and Corporate Governance: An International Study"*

Faruk Balli, Hatice Ozer Balli and Rosmy Jean Louis *"Decomposing the Income Insurance Channel across OECD and Emerging Markets"*

Hammad Siddiqi *"A Creative Institutional Response to Twin Problems of Liquidity and Information Gaps in Certain Emerging Markets"*

International Review of Finance Vol. 12, No.1, March 2012

配布年月：2012年5月

部数：1650部 I

Contents:

SPECIAL ISSUE ON GOVERNANCE, POLICY AND THE CRISIS: PART I

Issue Editors: Renée Birgit Adams

Renée Birgit Adams *"Foreword to Special Issue: Governance, Policy and the Crisis"*

Renée Birgit Adams *"Governance and the Financial Crisis"*

Ross Levine *"The Governance of Financial Regulation: Reform Lessons from the Recent Crisis"*

Steven N. Kaplan and Bernadette A. Minton *"How Has CEO Turnover Changed?"*

Paul Gregg, Sarah Jewell and Ian Tonks *"Executive Pay and Performance: Did Bankers' Bonuses Cause the Crisis?"*

2012年5月26日

研究観望会活動報告

代表幹事 本多 俊毅

2011年度の研究観望会は、第20回および第21回の2回開催されました。あらまし以下のとおりですが、熱心な会員が集まり、盛況裡に終了するとともに、日常的な研究交流に資することができました。

第20回研究観望会

日 時： 2011年11月24日（木）

テーマ：「マーケット・マイクロストラクチャーの理論と実証：株式市場における取引パターン」

報告者： 西出勝正 氏（横浜国立大学大学院国際社会科学研究所）
太田 亘 氏（大阪大学大学院経済学研究科）

会 場：学術総合センター2階中会議室
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

出 席： 59人（個人46人、法人関係13人）（受付ベース 全97人）

第21回研究観望会

日 時： 2012年3月29日（木）

テーマ：「国債市場とマクロ環境：マクロファイナンス・アプローチの概観」

報告者： 小枝 淳子 氏（東京大学大学院経済学研究科）

会 場：一般社団法人金融財政事情研究会2階大会議室
東京都新宿区南元町 19

出 席： 83人（個人60人、法人関係23人）（受付ベース 全115人）

以上

日本ファイナンス学会会員総会 追加資料

特別講演会開催の報告

日本ファイナンス学会は、コーポレート・ファイナンス分野で世界的に著名な研究者の来日の機会をとらえ、次のような特別講演会を開催いたしました。

テーマ：「企業意思決定における支配：株主対経営者」

Control of Corporate Decisions: Shareholders vs. Management

講師：シカゴ大学ブース経営大学院 Milton Harris 教授、

ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院 Artur Raviv 教授

日時：2011年8月31日

会場：学術総合センター2F 中会議室

参加状況：82名（うち個人会員から申込124名、実際参加66名、法人会員から申込23名、実際参加16名）の参加を得ました。

「企業意思決定における支配権：株主対経営者」(Control of Corporate Decisions: Shareholders vs. Management)と題して、コーポレート・ファイナンスにおける重要なテーマである株主行動と企業価値、そして支配権の問題について、*Review of Financial Studies* 誌に掲載された自らの最新論文に沿って両教授が解説しました。Milton Harris 教授、Artur Raviv 教授による情報経済学、契約理論を用いた分析は、これまでのコーポレート・ファイナンス研究の進展に多大な影響を与えました。

ABSTRACT

Control of Corporate Decisions: Shareholders vs. Management

This paper addresses the issue of whether shareholders would be better off with enhanced control over corporate decisions. The issue has been hotly debated in recent literature. Our main contribution is to use formal modeling to uncover some factors overlooked in these arguments. For example, we show that claims that shareholder control would reduce value because shareholders lack sufficient information to make important decisions or because they have a non-value-maximizing agenda are flawed. We also show, however, that even if shareholders seek to maximize firm value and can delegate decisions to management, shareholders should *not* control all major decisions.

JEL Classification Codes: G3, G34, G38

Keywords: corporate governance, shareholder democracy, direct shareholder participation, proxy process.

資料 4

日本ファイナンス学会 第 19 回大会（早稲田大学）報告

第 19 回大会運営委員会
委員長 宮島 英昭
プログラム委員長 谷川 寧彦

2011年5月14～15日開催された第19回大会は、東日本大震災の影響で危ぶまれましたが、多数の発表論文数と一定の参加者数を得て、成功裡に終了することができました。関係各位に感謝申し上げますとともに、大会概要について、以下のとおりご報告申し上げます。

1 参加状況

参加申込：438名（前年比17.97%減、96人減）（うち個人302，法人68，特別賛助68）
当日出席者：403名（前年比20.35%減、103人減）（うち個人304，法人45，特別賛助54）

第19回大会における事前申込数および実際の参加者数ともに前回大会に比べ100人程度減少しました。東日本大震災の影響と考えられますが、第12回大会（横浜国大395人）を若干上回っており、第11回大会（武蔵大410人）とほぼ同水準を維持できました。今後の参加状況を見守りたいところです。

2 論文報告状況

研究報告数：66（前年比3減）、応募数70（同0）。

応募論文数は、前回と変わらない高い水準でした。報告数も例年に比べ高い水準でしたので、報告会場（教室）を5会場設置することにしました。今大会企画として予稿集のCD-ROM化を図ると同時に、事前に論文がみられるホームページ上の掲載も充実させ好評でした。（CD-ROM化についてアンケートをとりましたので後掲の集計結果をご参照ください。）また「市場効率性の再検証：株式市場に質的变化は起きたのか」と題した会長講演が開催されました。

なお、非会員外国人による報告参加（英語）は、今回1名（英国）でした。

3 会計報告（別紙大会収支表参照）

(1)総収入は、大学からの補助金148,000円を得て538,000円と良好でした。広告収入10万円（2社パンフ配布料）と懇親会費、予稿集売上也例年並みにありました。一方、総費用は2,475,823円と前年比1,372,963円と著しく減少しましたので、学会会計負担（赤字額）は1,937,823円と過去の大会のなかで最も低い記録になりました。その主因は、予稿集のCD-ROM化による経費節減です。

(2)支出の主要費目についてみると、概ね平年なみでしたが、やはり予稿集CD-ROM化は著しい効果をもたらしました。前年の紙の予稿集に比べ930,595円も減少しました。また、前年の高い会場費に比べ今回は345,380円安く321,720円と例年並みになりました。この結果、前回大会総費用を1,372,963円下回り、2,475,823円にとどまりました。その他、各費目別の詳細については別紙大会収支表のとおりです。

以上

日本ファイナンス学会第19回大会収支
(早稲田大学、2011年5月14～15日)

収入

大学補助金	148,000
懇親会費	268,000
予稿集収入	22,000
広告収入	100,000

収入合計	538,000
------	---------

支出

各種印刷費		459,304
予稿集 CD-ROM 製作費	196,770	
大会プログラム(デザイン費含)	128,355	
出欠葉書	83,711	
会員総会資料	44,205	
アンケート用紙代	2,651	
名札紙代	3,612	
郵送料等		210,212
大会案内送料	98,070	
セッション関係者宛案内送料	6,400	
大会出欠用返信葉書	70,000	
予稿集 CD-ROM 発送費(委託費含)	35,742	
Web プログラムページ作成費		84,210
案内板作成費		2,000
備品購入費		29,181
会場費		321,720
交通費		10,270
飾生花		21,000
休憩室用飲料等一式		32,938
アルバイト料		490,000
学生	280,000	
社会人	210,000	
弁当代		113,828
懇親会費		634,000
関係者懇親会費		67,160

支出合計	2,475,823
------	-----------

収支差	1,937,823
-----	-----------

資料 5

平成 24 年 5 月 26 日

会 員 各 位

日本ファイナンス学会
監事 太田 亘、倉田 勲
和田賢治

平成 23 年度会計報告ならびに監査について

1 平成 23 年度の総収入は、4844 万円（前年度比 163 万円減、3.25%減）で若干の減少がみられました。内訳をみると、前年度繰越金が外貨積み増しにより 80 万円減少し、基礎的な収入である会費収入は督促がゆきわたらなかつたことにより 87 万円減少したためです。その他収入では早稲田大学の大会補助金が目立つくらいで大きな変動はありませんでした。ただ、とくに主要な個人会費が、督促すれば減らなかつたのかどうか不明ですが、100 万円減少しています。法人会員の厳しい環境も含め、個人会員の目減りを防ぎ、増やす努力をしなければなりません。個人会員の今後の推移がとりわけ注目されます。

2 一方、支出総額は 2387 万円（前年度比 460 万円増、23.9%増）と増加しましたが、昨年に続き円高の下で外貨を 5 万ドル（390 万円）購入したことが主因となっております。そのほか、名簿の作成配布、理事選挙の実施、Web サイトの拡充等で、発送費、郵送料、通信費、印刷費等の経常的経費が増加し、加えて特別講演会（63 万円）が開催されるなど活動の活発化により経費支出がふえました。いずれも前向きな運営の結果となっております。

3 これらの結果、来年度繰越額は 2457 万円となり、前年度比 623 万円減少しました。しかし外貨預金は 13 万ドルで前年度比 5 万ドル増加しました。定期的に発行されるようになってきた I R F の負担金 3 年分を蓄積したことになります。

4 今後、ホームページ利用の高度化は引き続き行う必要がありますし、大震災の影響と長期化した不況感のもと、収入環境は依然きびしい状況にあります。不断に財政維持のための措置を考えていく必要があります。

以上、所見を述べるとともに、会計処理については正確かつ適切に処理されていることを承認し、適正に監査したことを報告します。

以上

日本ファイナンス学会平成23年度 決算会計報告
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収入			支出		
<円勘定>			<円勘定>		
A	前年度繰越金	30,812,497	H	郵送料(郵便、宅配便等)	1,740,697
B	会費	16,940,000	I	電話・通信費(プロバイダー費用含)	1,332,180
	正会員	10,000 × 406 = 4,060,000	J	発送作業費	669,512
	法人会員	50,000 × 29 = 1,450,000		(発送代行業者への支払等)	
	特別賛助会員	200,000 × 17 = 3,400,000	K	学会案内等印刷費	512,984
		300,000 × 1 = 300,000	L	理事会運営費	262,904
		500,000 × 1 = 500,000		(理事会開催費・お弁当代等)	
	自動引落分	7,230,000	M	封筒・用箋等作成費	450,870
C	第19回大会収入	538,000	N	第19回大会費	2,475,823
	懇親会費	268,000		(案内・報告要旨印刷その他)	
	パンフレット配布料(2件)	100,000	O	第20回大会準備費	603,226
	予稿集売上	22,000	P	学会誌作成費	6,148,300
	大学補助金	148,000		現代ファイナンス	2,200,000
D	円預金利息	4,969		International Review of Finance	3,948,300
	前期 H23.8.22	2,656	Q	事務用品購入費	64,136
	後期 H24.2.20	2,313		(PCソフト・プリンタートナー等)	
E	学会誌売上	89,820	R	アルバイト料	3,624,620
	現代ファイナンス	75,660	S	研究観望会費(2回)	1,094,621
	IRF	14,160		(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F	大会予稿集売上	60,420	T	特別講演会(8/31 Dr.Harris & Dr.Raviv)	638,049
G	その他	0		発送費	169,519
				講演料	305,600
				会場費	78,195
				資料印刷費	84,735
			U	手数料支払	132,350
				(自動引落料、送金手数料等)	
				残高証明発行手数料	630
				みずほファクター手数料(4回)	105,335
				振込、送金手数料	26,385
			V	外貨定期預金(\$1=¥78.01 \$50,000)	3,900,500
			W	その他	220,000
				アナ協H23会費	100,000
				会費返金(12件)	120,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計			H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V+W 日本円合計		
			残 高		
			¥24,574,934 *		
			*内訳		
			預金(みずほ銀行 H24.3.31)		
			¥22,614,760		
			現金有高		
			¥1,960,174		


(次ページへ続く)


収入	支出
<US\$勘定>	<US\$勘定>
a 前年度繰越金 US\$80,638.03	
b 円勘定より振替(11/8/15、外貨定期預金) 50,000.00	
c 外貨普通預金利息収入 3.24	
前期 H23.8.21 1.62	
後期 H24.2.19 1.62	
d 外貨定期預金利息収入(2口) 9.68	
(1035829)	
H23.6.2 1.22	
H23.9.2 1.22	
H23.12.2 1.20	
H24.3.2 1.20	
(9609815)	
H23.6.2 1.22	
H23.9.2 1.22	
H23.12.2 1.20	
H24.3.2 1.20	
a+b+c+d US\$合計 US\$130,650.95	US\$合計 US\$0.00
	残 高 US\$130,650.95 *
	*内訳
	普通預金(みずほ銀行 H24.3.31) 40,650.95
	定期預金(みずほ銀行 H24.3.31) 90,000.00


平成24年 5月 24日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

袁 丹 野 

和田 賢治 

太 田 亘 

残高証明書

日本ファイナンス学会 様

平成 24 年 3 月 31 日 現在

金額合計	¥ 22,614,760 ※
------	----------------

種類	番号	金額(円)	摘要
普通預金	1743750	22,614,760 以下余白	

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

平成 24 年 4 月 2 日

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。
預金の残高には他店券によるご入金分も含まれております。

株式会社みずほ銀行
四谷支店
038697



日本ファイナンス学会 様

残高証明書

2012年 3月 31日 現在

(通貨略称を金額頭部に表示し、補助通貨金額は、※欄に表示します。)

種類	番号	金額	※	摘要
外貨普通預金	0701434	USD4065095		
外貨定期預金	1035829	USD2000000		
外貨定期預金	9609815	USD7000000		
		以下余白		

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

2012年 4月 2日

株式会社 みずほ銀行

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。

四谷支店



参考

日本ファイナンス学会平成22年度 決算会計報告 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	31,617,975	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,597,685
B 会費	17,816,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	962,060
正会員(19年度以前会費)	8,000 × 2 = 16,000	J 発送作業費	223,046
正会員	10,000 × 505 = 5,050,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 29 = 1,450,000	K 学会案内等印刷費	90,003
特別賛助会員	200,000 × 16 = 3,200,000	L 理事会運営費	275,926
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	238,245
自動引落分	7,300,000	N 第18回大会費	3,848,786
C 第18回大会収入	436,000	(案内・報告要旨印刷その他)	
懇親会費	320,000	O 第19回大会準備費	160,828
パンフレット配布料(2件)	100,000	P 学会誌作成費	5,786,583
予稿集売上	16,000	現代ファイナンス	2,200,000
D 円預金利息	8,695	International Review of Finance	3,586,583
前期 H22.8.23	5,686	Q 事務用品購入費	12,256
後期 H23.2.21	3,009	(PCソフト・プリンタートナー等)	
E 学会誌売上	174,700	R アルバイト料	2,906,090
現代ファイナンス	151,030	S 研究観望会費(2回)	1,132,915
IRF	23,670	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F 大会予稿集売上	24,000	T 手数料支払	133,850
G その他	0	(自動引落料、送金手数料等)	
		残高証明発行手数料	630
		みずほファクター手数料(4回)	114,050
		振込、送金手数料	19,170
		U 外貨預金購入(\$1=¥85.33 \$20,000)	1,706,600
		V その他	190,000
		アナ協H22会費	50,000
		会費返金(14件)	140,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計	¥50,077,370	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V 日本円合計	¥19,264,873
		残 高	¥30,812,497 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H23.3.31)	¥29,501,985
		現金有高	¥1,310,512


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$60,625.96		
b 円勘定より振替(10/8/25、外貨普通預金)	20,000.00		
c 外貨普通預金利息収入	2.43		
前期 H22.8.23	0.82		
後期 H23.2.21	1.61		
d 外貨定期預金利息収入(2口)	9.64		
(1035829)			
H22.6.2	1.22		
H22.9.2	1.22		
H22.12.2	1.20		
H23.3.2	1.18		
(9609815)			
H22.6.2	1.22		
H22.9.2	1.22		
H22.12.2	1.20		
H23.3.2	1.18		
a+b+c+d			
US\$合計	US\$80,638.03	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$80,638.03 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H23.3.31)	40,638.03
		定期預金(みずほ銀行 H23.3.31)	40,000.00


平成23年 4月 28日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

袁丹野 

太田 亘 

和田 賢治 

資料 6

平成 24 年 5 月 26 日

日本ファイナンス学会
会 員 各 位

日本ファイナンス学会

平成 24 年度予算について

1 平成 24 年度学会予算(別紙参照)は、前年度繰越金が 2457 万円(前年度比 20.24%減)と、600 万円低い水準でスタートするわけですが、前年度の会費収入がすこし減少したこともあり、今年度の会費収入は手堅く 1700 万円(前年度比 5.55%減)を見込みました。その結果、その他を加えると合計 4207 万円(14.67%減)が見込まれることとなります。通常の年間必要経費からは余裕があるものの、現下の経済状況にあって、個人会費収入ならびに法人会員・特別賛助会員収入についてはまことに厳しい状況ですので、安閑としてはいられず、未納分の督促をていねいに実施することにより、ほぼ前々年なみの収入に近づけなければならないと思われま

す。

2 一方、支出は、会費収入等とバランスすることをめざし、1750 万円を見込みました。ホームページ関連経費の増加など避けられない支出はあるものの、その他経費の節減に努めるとともに、外貨購入を抑制的に見込みました。円高メリットを生かす方向もあるものの、収入に見合った支出を図り、支出水準としては、ほぼ例年なみの支出を想定しました。

3 外貨繰越金 US\$130,650 は、ほぼ 3 年分の I R F 購入額になりますので、円高の中では通常の支払は円から直接 US\$ に転換して送金することにより、若干の積み増しに止めることができると思われます。しかし、円安に振れる場合を想定し、1 年分の支払いを US\$ 勘定から支出するとしました。この結果、繰越金は US\$101,239 となります。

4 以上から、平成 24 年度予算は前年度繰越金を維持することになりますが、大震災と不況感の影響から、会費収入の減少もあるかもしれませんし、諸活動が活発化すれば、さらに経費がかかるようになるでしょうから、通常の経費節減、収入増を不断に心がけていかなければなりません。

以上

別紙

日本ファイナンス学会平成24年度
予 算 書

平成24年5月26日

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	24,574,934	E 郵送料	1,500,000
B 会費	17,000,000	F 電話・通信費	1,400,000
10,000 × 1,250 =	11,800,000	G 発送作業費	250,000
50,000 × 30 =	1,500,000	H 学会案内等印刷費	300,000
200,000 × 16 =	3,200,000	I 理事会運営費	250,000
500,000 × 1 =	500,000	J 封筒・用箋等作成費	250,000
C 出版物売上等	500,000	K 学会誌	
		「現代ファイナンス」誌	2,200,000
		I R F 誌	3,500,000
		L 第20回大会費用	2,500,000
		M 事務用品購入費	50,000
		N 研究観望会経費	1,200,000
		O アルバイト料	2,900,000
		P 手数料支払い	150,000
		Q 外貨購入費	1,000,000
		R その他	50,000
A+B+C	42,074,934	E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R	17,500,000
		残高(円)	24,574,934
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
A' 前年度繰越金	130,650.95	D' 支出	41,176.00
B' 新規外貨購入	11,764.70		
A'+B'	142,415.65	D'	41,176.00
		残高(ドル)	US\$ 101,239.65

資料 7

2012 年度～2014 年度

日本ファイナンス学会 第 10 期 執行部

会 長	竹原 均* (早稲田大学)	
副会長	大橋和彦* (一橋大学)	
	小林孝雄* (青山学院大学)	学会誌・国際関係
常任理事	本多俊毅* (一橋大学)	総務
	山口勝業* (イボットソン・アソシエイツ・ジャパン)	総務
理 事	池尾和人* (慶応義塾大学)	
	砂川伸幸* (神戸大学)	
	祝迫得夫 (一橋大学)	研究観望会
	宇野 淳* (早稲田大学)	
	太田 亘 (大阪大学)	
	大村敬一* (早稲田大学)	
	神山直樹* (ドイツ証券)	
	川北英隆* (京都大学)	
	久保田敬一* (中央大学)	
	倉澤資成* (横浜国立大学)	
	坂巻敏史* (三菱 UFJ 信託銀行)	
	高野 真* (ピムコ・ジャパン)	
	土岐大介 (一橋大学)	
	俊野雅司* (大和ファンド・コンサルティング)	
	長澤和哉 (MSCI ジャパン)	
	森平爽一郎* (早稲田大学)	
	米澤康博* (早稲田大学)	
	渡辺雅弘 (アルバータ大学)	国際関係
監 事	沖本竜義 (一橋大学)	
	西出勝正 (横浜国立大学)	
	倉田 勲 (金融財政事情研究会)	

*被選出理事、無印は会長指名。

(五十音順)

以上